

新年度のご挨拶

皆さまには、常日頃より患者さんのご紹介や在宅医療、移行（期）医療といった医療連携において、多大なご支援、ご協力を頂き、ありがとうございます。

まず、在宅医療に関しましては、当センター自身の機能強化として、2019年に在宅支援病床8床の運用を開始しました。これにより、在宅医療の対象と考えられる患者さんへの在宅医療のスムーズな導入と、導入後のバックアップ体制の強化が可能になり、在宅医療の推進が期待できます。移行（期）医療に関しましては、地域診療情報連携システム（南大阪 MOCO ネット）の推進を行いました。現時点で、診療所、病院、訪問看護ステーション、保健所、など約50か所の医療機関の皆さまと連携させていただいています。これは昨年度にくらべて約30か所の増加になります。特に、歯科診療所、福祉施設、薬局に新たに加わっていただきました。ご協力いただいている皆さま、ありがとうございます。他方、地域における当センターの役割強化として、2019年4月に大阪府より委託された移行期医療支援センターを設置しまして、大阪府における移行期医療体制の確立をすすめております。この事業も皆さまのご協力なしには成立いたしません。よろしくお願いいたします。



院長 川田 博昭

救急医療に関しましては、2014年のPICUの増床、2018年4月の急性期病棟の再開棟、2018年11月の小児救命救急センターの指定を受けるなどして、中毒、熱傷、多発外傷以外の重症救急患者さんの受け入れに注力してまいりました。しかしながら、いわゆる一次救急、二次救急、特に外科系救急患者さんへの応需がまだまだ不十分であることも自覚しております。一次から三次までのすべての小児救急に対応する力は、施設面、人員面のいずれにおいても当センターには十分あるとは言えませんが、2020年2月に医療系職員のみならず事務職員の夜間業務体制を変更し、病院間搬送や三次救急の患者さんのみならず、救急隊から搬送される二次救急患者さんも診させていただくことにいたしました。今後は救急専門医の補充も視野に入れ、救急患者さんの受け入れに一層、努力してまいります。

勿論、周産期、小児期の専門病院として行ってまいりました急性期、慢性期諸疾病への専門的医療も進めてまいります。これまで通り、皆さまと一緒によりよい医療を推進する所存でおります。皆さまのご支援、ご協力、よろしくお願いいたします。

基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域と連携して、母子保健を充実させます。
- 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。

診療科の紹介

放射線科

小児を専門とする画像診断医は全国的にも少ないなか、当科では現在、放射線診断専門医3名で、超音波検査、CT検査、MR検査による断層画像検査を中心に、他のモダリティをあわせて総合画像診断を行っています。

なかでも超音波検査は、放射線被ばくを伴わないだけでなく、小児では超音波のみで確定診断ができたり、CTやMRで診断困難な場合でも超音波を用いることでより確かな診断に導くことができることも多いことなどから、小児の画像診断においては欠くことのできない検査であり、当科では特に力を入れています。

また、IVRとして、各種画像ガイド下による穿刺・ドレナージや、緊急血管塞栓術にも対応しています。



放射線科スタッフ

さらに各診療科をサポートする体制として、タブレット端末を用いた遠隔画像診断システムを導入しました。これにより、院内に放射線科医が不在（夜間や出張など）の時でも、院内で撮影された画像をタブレット端末に送信し、院外にいる放射線科医がこれを読影、主治医へ所見を伝えることができます。昨年末より開始された二次救急診療においても活用されています。

地域連携に関しては、CT/MR検査（検査センター）や乳房手術後の放射線治療のご依頼に対応しております。くわしくは当センターホームページ「医療機関のみなさまへ」をご覧ください。

（放射線科 主任部長 西川 正則）

臨床検査部門の紹介

位田臨床検査科主任部長、竹内病理診断科主任部長の指導・監督の下、臨床検査技師37名（常勤27名、非常勤10名）、非常勤事務4名で業務を行い、開院時より2名体制で緊急検査・輸血検査の当直業務をしています。

臨床検査部門では、診断に欠かせない様々な検査を、大きく分けて5つの室で行っています。

- ① 血液や尿・髄液などの体液を検査する検体検査室
- ② 病理組織を検査する病理検査室
- ③ 輸血検査と血液製剤管理を行う輸血・細胞管理室
- ④ 脳波・心電図・超音波などの生理検査室
- ⑤ 先天性代謝異常症などの検査を行うマス・スクリーニング検査室



臨床検査部門スタッフ

臨床現場に貢献できるように、正確な結果を短時間で報告することや、検体使用量を少量化し、採血量を少なくできるように取り組んでいます。特に生理検査室ではお子さんが安心して検査ができる環境を整えています。院内感染防止対策チームの一員として環境培養検査、AST・ICTラウンドにも取り組み、また、小児輸血におけるドナー数の削減を目的に赤血球液や血小板製剤の分割化を行っています。大阪府及び堺市の母子行政委託事業として新生児スクリーニング検査を実施しています。

今後も臨床検査部門では多種多様な検査に取り組み、産科・小児医療の一助になればと努力してまいりますので宜しくお願いいたします。

（臨床検査部門 技師長 片山 徹）

小児循環器科移行期外来 (ここからステップ外来) を開設しました

先天性心疾患に対する治療の進歩により、重症な疾患でも成人に達することができています。小児から成人になる過程で患者さん本人が、

- 自分の病気の病名、どんな病気か？
- 現在内服している薬の必要性
- 日常生活で気をつけること
- 就業 ●社会保障 ●妊娠・出産

などについて理解することが、よりよい生活を過ごすためには重要です。

2020年から専門外来として「**ここからステップ外来**」を開設しました。発達段階に応じた自立支援を行っており、実際には12歳、15歳、18歳の時点で、1人に対して30～60分をかけていろいろな分野(循環器医師、看護師、助産師、心理士、ケースワーカーなど)から説明を行っています。



産科外来で「産後サポート外来」を開設しました

安心した子育て支援を目指して母子保健法が改正されました。

産科外来では2週間健診、産後ケア入院に加えて2019年12月より「**産後サポート外来**」を開設し、1か月健診以降も相談を受けています。

産後1か月以降の母乳トラブルや育児不安をはじめ、入院が長くなる赤ちゃんのお母さんからは母乳分泌不足や、うまく授乳できないなどの相談も多く、産後サポート外来ではお母さんの頑張りや思いを聴く機会にもなっています。



じっくり関わり、一人でも多くのお母さん方に、母と子の健やかな毎日へつながるようなサポートをさせていただいています。

診療科 新任のご挨拶

眼科の新しい責任者となりました遠藤高生です。

長らく欠員の状態が続いておりましたが、4月からは新しく1名常勤医師が加わり、常勤3名体制で小児眼科医療を充実させていきたいと考えています。よろしくお願ひいたします。



眼科 医長
遠藤 高生

大阪大学、大阪市立総合医療センターを経て当センターへ参りました耳鼻咽喉科の岡崎鈴代です。

耳疾患、気道関連疾患など自己およびスタッフ研鑽を積みながら、精一杯努めますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



耳鼻咽喉科 部長
岡崎 鈴代

地域診療情報連携システム(南大阪MOCOネット)災害時机上訓練を行いました

当センターでは、在宅医療推進のため地域診療情報連携システム「南大阪MOCOネット」を運用しています。

今年度、災害時の在宅医療患者の安否情報共有の訓練を、大阪南ブロックの3保健所(和泉、岸和田、泉佐野)、近隣の診療所、訪問看護ステーション等と協力し、2回行いました。

システムのファイル共有機能を活用し、エクセルファイルで患者一覧表を作成し、各施設から、閲覧・入力更新します。

この機能で、患者の安否情報を確認、共有化でき、円滑な支援につなげることが期待できます。

緊急時患者安否確認シート(案)

患者氏名	医療的ケア	震災直後(30時間以内)			震災直後(10時間以内)			
		確認内容	確認日時	記入者 所属 職 氏名	確認内容	確認日時	記入者 所属 職 氏名	
A	人工呼吸器 胃ろう	停電しているが、発電機にて電源確保	2020/1/28 14:50:00	泉佐野 保健所 保健師	母から連絡あり入院希望あり。現在入院中。	2020/1/28 17:50:00	母子C 保健師	〇〇 〇〇
B	人工呼吸器 導尿	停電なし。	2020/1/28 17:12:00	泉佐野 保健所 保健師	停電なし、安全確認済	2020/01/28 17:00:00	〇〇 医師	〇〇 〇〇
C	人工呼吸器 吸引	停電なし。	2020/1/28 14:57:00	泉佐野 保健所 保健師	停電なし、安全確認済	2020/01/28 18:10:00	〇〇 医師	〇〇 〇〇
D	バイパップ(夜間)	停電しているが、3時間ほどで復旧見込み。	2020/1/28 15:00:00	泉佐野 保健所 保健師	停電なし、安全確認済	2020/1/28 15:00:00	〇〇 診療所 医師	〇〇 〇〇

2020年度 イブニングセミナーのお知らせ

※テーマ、講演者についてはホームページでもお知らせいたします。
変更の可能性がありますことをご了承ください。

日程	テーマ	担当部署	講師
2020/6/3(水)	患児の将来を見据えた、小児心臓手術の今	心臓血管外科	盤井 成光
7/2(木)	小児のてんかん ～診断と治療～	小児神経科	柳原 恵子
9/3(木)	(仮) 発音の発達と当院での言語治療	口腔外科	言語聴覚士 井上 直子
10/7(水)	(仮) 遺伝カウンセリング (小児の先天異常を中心に)	遺伝診療科	松田 圭子
11/5(木)	自閉スペクトラム症 (ASD) ・注意欠如多動症 (ADHD) の理解と対応について	子どものこころの診療科	三宅 和佳子
12/2(水)	(仮) 妊娠・授乳期の薬物療法について	薬局	大津 由美子
2021/1/7(木)	糖尿病と妊娠 up to date	母性内科	和栗 雅子
2/4(木)	子どもの嘔吐・腹痛・下痢	消化器・内分泌科	前山 隆智
3/3(水)	抗菌薬の適正使用	感染症科	野崎 昌俊

地域の医療機関の皆さまに大阪母子医療センターを知っていただくことを目的に開催しております。今年度は水曜と木曜に年9回開催予定です。どうぞお気軽にご参加ください。

対 象
医療関係者

時 間 17時45分～19時00分

場 所 研究所1階大会議室

事前申込 不要
(直接会場にお越しください)

認定 されます
 ・大阪府医師会生涯教育研修システム・・・1単位
 ・日本小児科学会新専門医制度 iii 小児科領域講習・・・1単位

分娩取扱者に対する 新生児蘇生法 (NCPR) 講習会 (Aコース)のご案内

今年度は下記のとおり
引き続き講習会を
開催いたします。



詳細は当センターの
ホームページを
ご覧ください。

- 日 程** 2020年10月3日(土)、2021年2月6日(土)
- 時 間** 12時30分～17時30分
- 場 所** 大阪母子医療センター 2階看護演習室
- 参加費** 5,000円/人
- 申込方法** メールにてお知らせください。
 - 受講希望日 ●所属先 ●職種
 - 参加者名(フリガナ) ●連絡先
 - 文書郵送先
- 申込先** 患者支援センター
E-mail: chiren@wch.opho.jp

ユニフォームが変わりました(2020.4～)

スクラブと白衣の
2種類になりました

医師用

看護師用

部署により異なっていた
ユニフォームが全部署
スクラブで統一されました

交通のご案内



診 察 時 間 : 平日 9時～17時30分
予 約 受 付 時 間 : 平日 9時～19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪母子医療センター 患者支援センター
〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840
【初診専用】 TEL: 0725-56-9890 (直通)
FAX: 0725-56-5605
【その他】 TEL: 0725-55-3113 (直通)
FAX: 0725-56-7785
【医師相談窓口】 E-mail: chiren@wch.opho.jp

医療者対象 ホットライン (※24時間受付直通)

- PICUホットライン
☎ 0725-56-1070
- 小児がん・白血病
ホットライン
☎ 0725-57-7677
- 心疾患ホットライン
☎ 0725-56-3833

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。